

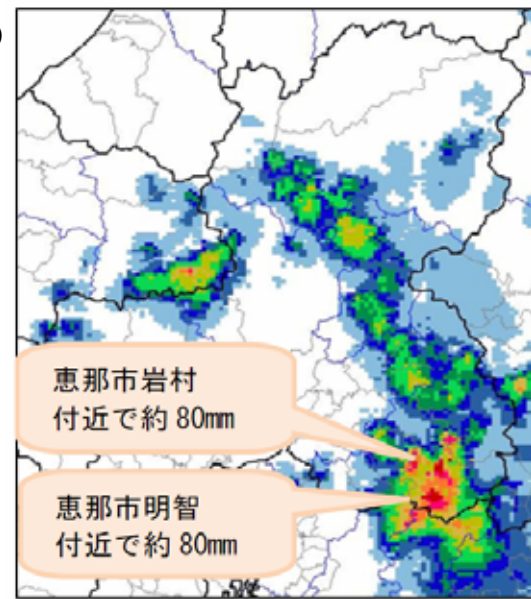
平成22年8月19日～20日、小里川ダムは洪水調節を実施

○洪水調節の概要

〔降雨〕 流域平均総雨量 82.5mm
 〔洪水〕 流入量(最大) 84.73m³/s
 〔洪水調節〕 最大流入時の放流量 7.22m³/s
 調節量 77.51m³/s

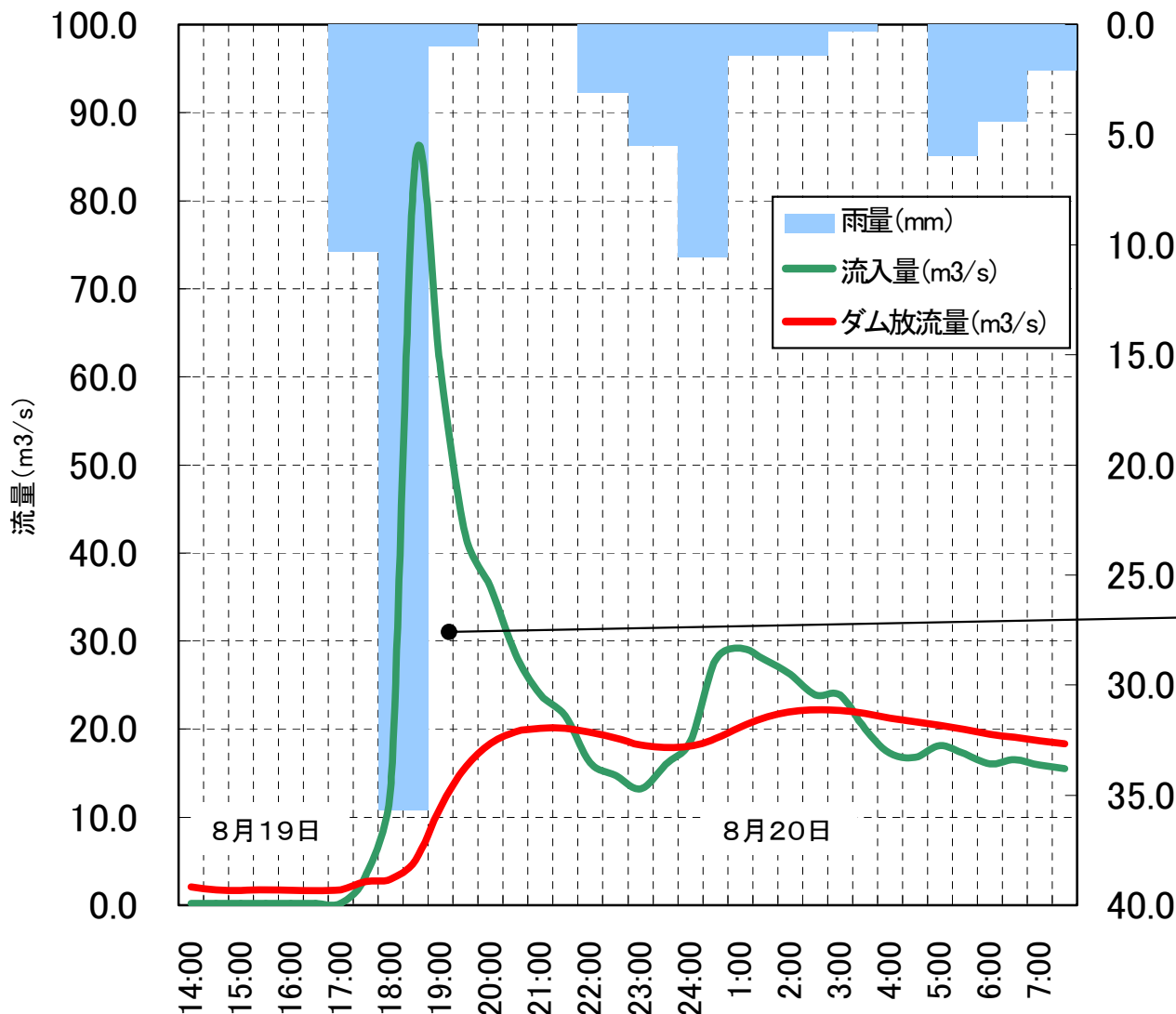
○気象概況(岐阜県地方气象台) 8/20 10:00現在

19日の昼過ぎから20日の明け方にかけて、中津川市から恵那市を中心に所々で大雨。

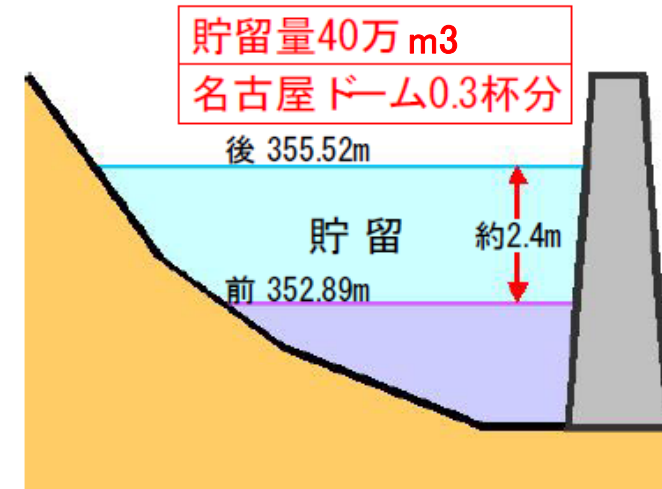


19日17時30分までの1時間解析雨量

○小里川ダム洪水調節図(速報)



(出水前後の水位比較)



平成22年8月19日～20日、小里川ダムは洪水調節を実施

《8月20日におけるダム巡視の状況》
※AM10:00



常用洪水吐からの放流状況(約17m³/s)



常用洪水吐からの放流状況(約17m³/s)

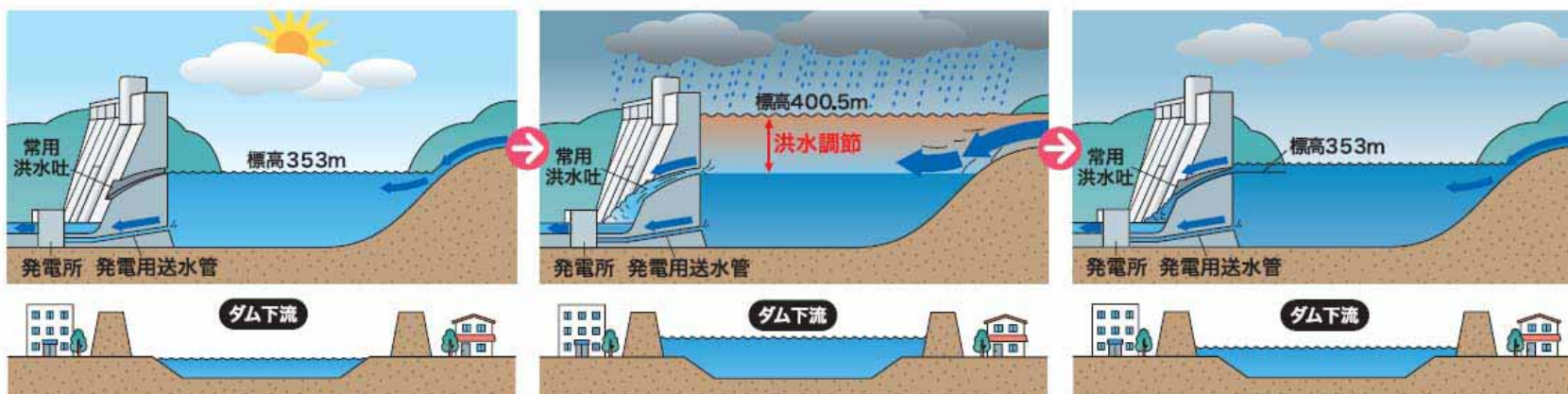


堤体・貯水池の状況

(参考) 洪水調節について

小里川ダムでは、刻々と変化する気象情報や河川状況、ライブカメラによるモニター監視や現場の巡視などによって得られたデータを基に洪水調節の時期や放流量を決定し、ダムの放流ゲート进行操作。上流から流れ込む川の水を一時的にダム湖にため、安全な量だけを下流へ流すことで、浸水被害を未然に防いでいます。

洪水調節 の イメージ



① 通常の流れ

いつもは標高 353m まで水を貯めています。ダム湖の水は発電用の送水管を通して下流に流れます。

② 大雨になると…

大雨になると、ダム湖に水が貯まりはじめ常用洪水吐から流れ出します。さらに大雨が続くとダム湖にどんどん水が貯まり、洪水調節をします。

③ 雨が止んでくると…

雨が止んだら、次の大雨に備えダム湖の水位を①の通常時の水位に徐々に戻します。



※イメージ: H22年5月「ダム管理演習」の状況